チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 103 2016 年 2 月 20 日発行 郵便振替口座「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

チェルノブイリ30年・福島5年救援キャンペーン

小出裕章講演会&チャリティコンサート

2016 年 4 月 23 日 (土) 19:00 開演 (18:30 開場) 練馬文化センター・小ホール(東京・練馬区)

1986 年 4 月 26 日に起きたチェルノブイリ原子力発電所事故により、広大な土地に放射能が降り注ぎ、自然界は汚染され、人々は故郷を、地域社会のつながりを、そして健康を失いました。何より被害を受けたのは子どもたちでした。事故数年後には小児甲状腺がんが多発しました。そして、事故当時生まれていなかった、次世代の子どもたちにも脳腫瘍・目の腫瘍・腎臓・肝臓がん、血液の病気、呼吸器官の病気、骨の異常など、さまざまな健康被害は続いています。しかしウクライナ、ベラルーシでは、事故による被害は終ったものとして、子どもたちが一時的に汚染地を離れて過ごす「保養」や、病気の子どもたちへの補償など、被災者への支援は削減や打ち切りの方向にあります。そのため国際社会の支援は今も必要とされています。

2011 年 3 月 11 日に起きた東北大震災、福島原子力発電所事故により、チェルノブイリ事故は遠い国の出来事ではなくなりました。チェルノブイリの基準であれば避難するべき放射線汚染地区に、子どもを含めた人々が暮らし続けています。日本ではチェルノブイリのような「保養」が、国の政策として行われていません。そのため「沖縄・球美の里」のような民間の保養施設が福島の子どもたちを保養に受け入れていますが、寄付に頼る経営には常に困難がつきまといます。

チェルノブイリ原発事故から 30 年、福島原発事故から 5 年、いま私たちが知るべきことは何か、子どもたちを被ばくから守るにはどうすればよいのか、一緒に考えてみませんか。

講演 小出裕章

元京都大学原子炉実験所 助教。「原子力を選んでい ない子どもたちを被ばく から守りたい」

撮影:松岡広樹







♪ チャリティコンサート ♪フルートとピアノ 春の調べ吉原りえ(フルート) 新垣隆(ピアノ)

イベント開催のための賛同金を募集しています。-ロ1,000円 みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

イベントの詳細は p. 2 をご覧ください。



- p. 2 4月イベント情報
- p.3 2015年支援報告と
 - 2016 年支援計画
- p. 4-5 里子訪問
- p. 6-7 2015年11月報告会
- p.8 里親のページ
- p.9 「希望」太陽光発電
- p. 10 ふくしまだより p. 11 黒部ドクター
- p. 12-13 チェルノブイリの歌声
- p. 14 決算報告 p. 15 募金· 救援状況
- p. 16 事務局から

チェルノブイリ 30 年・福島 5 年救援キャンペーン 小出裕章講演会&チャリティコンサート

■2016 年 4 月 23 日 (土) 19:00 開演 (18:30 開場) ■練馬文化センター 小ホール (西武池袋線・西武有楽町線・都営地下鉄大江戸線 「練馬駅」北口より徒歩 1 分)



■定員 520名 ※予約締切は4/22(金)午後3時まで。定員になり次第お申し込みを 締め切ります。 **■入場料 予約2000円 当日2500円** (全席自由)

〈講 演〉 小出 裕章 : 原発の危険性を一貫して訴えている元京都大学原子炉実験所助教小出裕章さんに、現在起きている問題と、その中で子どもを守るために私たちは何をすべきか、お話いただきます。小出さんは昨年3月に 京都大学を退職後、全国各地で講演をされています。著書に『隠される原子力・核の真実』(創史社)、『放射能汚染の現実を超えて』(河出書房新書)、『原発・放射能子どもが危ない』共著・黒部信一(文春新書)、ほか多数。

くチャリティコンサート ~フルートとピアノ 春の調べ ~ >

吉原 りえ(フルート)、新垣 隆(ピアノ): 吉原りえさんは、子ども基金事務局の地元、練馬 区にご在住で、演奏活動とともにフルート教室の講師もされています。新垣隆さんは、『交響曲第1番』(HIROSHIMA)、映画「日本と原発」の音楽など多数作曲、テレビ、ラジオ番組にもご出演されています。長年、吉原さんのリサイタルでは新垣さんが伴奏をされています。おふたりの息の合った演奏をお楽しみください。

〈報告〉

黒部 信一 : 「未来の福島こども基金」代表、小児科医、すずしろ診療所所長

佐々木 真理 : 「チェルノブイリ子ども基金」 事務局長

「広河隆一チェルノブイリ写真展」

4/23 (土) 11:00~17:00 練馬文化センター内ギャラリー(入場無料)

フォトジャーナリスト広河隆一撮影の写真、福島の子どもの描いた絵画も展示。 ※18 時半より練馬文化センター小ホールのロビー内でも一部展示します。「講演会&チャリティコンサート」にご参加の方はご覧いただけます。

<お申込み方法> 下記 Tel/Fax/E-mail いずれかの方法。

Eメールの場合は、件名を「4/23イベント申し込み」として、次の項目をご記載ください。

●お名前 (ふりがな) ●予約人数 ●メールアドレス ●電話番号 ●郵便番号・住所

※このイベントのチラシ配布やポスター掲示にご協力いただける方は下記連絡先までご一報ください。

[主催] チェルノブイリ子ども基金/未来の福島こども基金

⇒お申込み・お問い合わせ:チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax: 03-6767-8808 E-mail: cherno1986@icom. zag. ne. ip

☆イベント開催のための賛同金を募集しています。一口 1,000 円
郵便振替口座 00160-4-98316 チェルノブイリ子ども基金

2016.1~2017.3 開催の写真展

チェルノブイリ写真を特別価格で貸し出します ~事故30年の記念事業~

- ★広河さんのチェルノブイリ写真/1989年~2016年取材の展示/被曝した子どもたちが描いた絵画
- ★「チェルノブイリの子どもたち」への救援金作りが目的であること

2015年の支援報告と 2016年の支援計画

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。皆様の募金のおかげで昨年も チェルノブイリの子どもたちへの支援活動を行うことができました(決算報告は14頁をご 覧ください)。今後も、みなさまからの貴重な募金を、一番必要なところへ活かせるよう活動し てまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

★2015 年 12 月の支援報告

<ウクライナの青年・ウラディスラフの手術 費用> 募金をお寄せくださったみなさま、 まことにありがとうございます。昨年末に 15600 ドルの支援を行いました。手術費用

(60000 ドル) に達するまで、病院の口座に保管されます。手術が受けられるよう、引き続き支援を呼び掛けていきます。これまで内分泌研究所の医薬品代を支援してきましたが、現地の支援団体と相談し、ウラディスラフの手術費用を優先させることにしました。



★2016 年の支援計画

<ベラルーシ>

- ●児童健康回復センター「希望」: (1)「腫 瘍病の子どものための特別保養」をこのセ ンターで実施。(2)太陽光発電プロジェクト (※詳細は9頁をご覧ください)
- ●慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」:この団体の里子・奨学生の支援。「希望」で開催する病気の子どもための保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。
- ●すでに解散した慈善団体「チェルノブイリのサイン」に所属していた里子支援、スタッフ1名分の給料。

<ウクライナ>

- ●慈善団体「チェルノブイリ・子どもたち の生存」: この団体の里子の支援。スタッフ 給料と事務所維持費の一部。
- ●「汚染地域に住む病気の子どものための 特別保養」: クリミア半島の子どもサナトリウムで実施。
- ●ウラディスラフの手術費用:手術費用のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

※p. 13 に関連記事掲載。

※子ども基金が支援したものは、現地団体・病院が物品等を購入後、領収書を提出してもらいます。子ども基金は、書類上のチェックと、事務局スタッフが現地を訪問した際に、現物の確認を行っています。

L・ウラディーミル(愛称ヴォーヴァ) 2000 年生まれ ゴメリ市

左臀部と小骨盤への拡散を伴う腹部の腫瘍(類腱線維腫)。障がい児認定を受けているが、チェルノブイリ事故が原因の病気とは認められていない。2014年4月にミンスクの小児がんセンターで手術を受けた。腫瘍が全部取りきれず、2015年3月に2度目の手術、その後は定期検査を受けている。現在服用しているのはビタミン剤のみ。第2

段階の脊柱側湾症。片足が3.5 センチほど短く、左の腰のあたりが膨らんでいる。まだ成長途中のため、今後の治療は決められていない。関節に問題があり、歩くこともできない時期もあったが、今は足をひきずりながらも、歩けるようになった。病気をしてからはスポーツができなくなった。母親アンナは食事に気

をつけていると話す。「ビタミンをとるために、果物やジュースなど飲ませるようにしています。店で売られている食品は検査済のものですが、きのこやベリー類を採ったら、測定所に持っていきます。あるとき、きのこを持っていったらものすごく高い数値が出て驚いたことがあります。村で暮らしている祖母のところで野菜を作っていて、夏休みなどは子どもたちを連れてそこで過します。空気もいいし、自然の中で子どもたちが遊ぶのはよいことですから」家族は以前、近くの母親の実家で暮らしていたが、5年前に今のアパートに引っ越した。壁紙や電気など、部屋の内装はすべて父親が少しずつ行っている。母親は専門学校の事務

員の仕事をしている。父親は以前、店員の仕事を していたが解雇された。その後は定職が見つから ず、今は単発的な仕事をしているだけという。「こ の町で定職を見つけるのは難しい」と話す。家族 が住んでいる地区にはここ数年、社会保障住宅 (障がいのある子どものいる家族や、貧困世帯な どのための集合住宅)が他にも建設された。しか し、同行した慈善団体の代表者は、「このすぐ近 くに工場があり、環境がよいとは言えない。病気

> の子どものいる家族に、(国は)こんな場所の住居を割り 当てるなんて」と話した。

> > -----

ヴォーヴァは音楽・芸術教育に 力を入れている学校に通って いて、バヤン (アコーディオンのよ うな形の民族楽器)を習って いる。訪問した時にも披露し てくれた。弟リョーシャ (2006 年生まれ) は健康に問題がな

く、学校のクラブ活動で空手を習っている。元気いっぱいに駆け回る弟のあとから、ヴォーヴァは足を引きずりながら歩いていた。

その後、ヴォーヴァ8月に「希望」での保養(2015年10月号ニュースで報告)に参加した。早く走ることはできないが、他の仲間たちとバレーボールなどの球技大会に積極的に参加し、年長の健康なグループの子どもたちに大差をつけて優勝した。そのときの笑顔は輝いていた。キャンプファイヤーでは楽しそうに仲間たちと歌を唄い、「バヤンがあったら演奏できるのになぁ」と残念がった。放射能に関する授業では、本で読んだという、広島・長崎の原爆被害のことも話していた。早く走れなくても、他の得意なことを通して生き生き過ごしているヴォーヴァの姿を、とても頼もしく感じた。



(2015年8月「希望」での保養。中央がヴォーヴァ)

K・チムール 1999 年生まれ モーズィリ市

ホジキンリンパ腫。結節性硬化症。2014年1月に発病。同年2月に生検手術を受けた。これまでに受けた治療は化学療法6ブロック、ホルモン療法、照射療法1ブロック。障がい児に認定されている。ほかに、二次性高血圧、アレルギー性肺胞炎と診断され、何種類もの薬を服用している。11年生で、自宅学習をしている。大学に進みたいと希望しているため勉強にたくさんの時間を割いている。母親スヴェータは息子の介護手当を受けている。父親は2015年4月、チムールと同じ病気(ホジキンリンパ腫)により亡くなった。

チムールは母親の付き添いで、毎月ミンスク市の病院へ検査に通っている。さらに、生涯にわたり PET 検査(陽電子放出断層検査)が必要とされており、年に2度、サンクトペテルブルク(ロシア)で検査を受けなければならない。一度の検査には800ドルかかる。その上さらに交通

費、宿泊費がかかる。昨年はお金が足りず、1度 しか検査に行けなかったという。

2015年7月、慈善団体の招待により、ドイツの山岳地方で行われた保養に参加した。それまで彼

はいつも家にいるだけで、うつ状態にあった。その後、母親からの手紙には「息子は明るくなり、少し痩せて(健康的に)、何よりも笑顔を取り戻した。保養に参加したおかげで、"生きていこう"と、自ら確信するようになった」とあった。

2015年5月、すでに里親が決まっているモー ズィリ市の別の男の子の家を訪問したとき、同行 のポホモワさん(慈善団体「困難の中の子どもた ちへ希望を | の代表者) が、「もうひと家族、会 ってほしいのだけれど、来てもらってもいい?」 と私に聞いた。すぐ近くのアパートに住んでいる という親子がやってきた。つい最近、夫を亡くし たという女性は、頭に黒いスカーフをまいていた。 傍らの青年チムールは、私たちとあまり目を合わ せようとしなかった。母親は息子の病気のことを 話し、夫が息子と同じ病気で亡くなったと話すと きには、涙をこらえきれなくなっていた。ポホモ ワさんが、自分の娘が甲状腺がんになったことが きっかけで、慈善団体を作ったこと、日本の子ど も基金がどんな支援をしているのか、などについ て話した。その話の中で、自分と娘が日本に招か れて講演をした(2012年4月)話をすると、そ

れまで黙っていたチムールが、自分が知っている日本のことをぽつりと口にし、帰り際にも私に日本の漢字のことなどを質問した。彼らと別れた後、ポポモワさんは、「うつ状態にあるチムールを他の子どもと一緒にドイツに保養に行かせることを心配していた(この団体の子どもたちは、子ども基金の支援で「希望」で保養に行ったり、ドイツなどの他国のNGOの支援で保養に行ったりしている)。しかしこの心配をよそに、チムールは元気に

なって保養から帰ってきた。あたたかく受け入れてくれる人たちとの交流、豊かな自然環境が、心身の回復にいかに大切かを、改めて感じる。

報告会「2015年夏子どもたちの保養 ~チェルノブイリと福島」

2015年11月21日、パルシステム東京本部 (東京都新宿区)大会議室において「チェルノ ブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」「生 活協同組合パルシステム東京」共催により、 子どもたちの保養についての報告会を開催し ました。当日は85名のご参加がありました。 ご参加いただいたみなさま、ありがとうござ います。報告会の内容は次の通りです。

◇チェルノブイリの子どもたちの保養 (ベラルーシ「希望」): 佐々木真理 (チェルノブイリ子ども基金) 2015 年夏に開催した、「病気の子どもたちのための特別保養」の様子を報告。 ※この保養の様子は子ども基金ニュース 2015年 10 月号に掲載。

◇福島の子どもたちの保養 (沖縄県久米島「沖縄・球美の里」):向井雪子 (未来の福島こども基金) 夏の学童保養の様子と 10 月に幼稚園児の保養の際に行われた「久米島の人たちに感謝する会」の様子を報告。

◇ベラルーシの学校の放射線教育:小寺隆幸 (チェルノブイリ子ども基金) 2015年8月に、日本の教育研関係者がベラルーシの「希望」と 学校を訪問した様子を報告。「希望」で保養 中の子どもたちが、内部被ばくを避けるため の食材の選び方・料理の仕方など、子ども同 士が討議しながら学ぶ様子や、学校での放射 線教育について報告。※この訪問の様子は子 ども基金ニュース2015年10月号に掲載。

(当日配布資料をご希望の方は事務局へお問 合せください。)

<参加者の感想>

●ベラルーシでは国の補助による保養施設が あったり、放射能に関する教育も行われてい ると知りました。日本でも"食べて応援"な どではなく、きちんと現実を見た対応を取っ て欲しいし、国民ももっと目を向けて声をあ げてほしい。(女性 30代) ●それぞれの方か ら生のベラルーシや福島の子どもの保養を見 ることができ、あらためて福島の人々に対し ての国や県の対応の酷さがわかりました。(女 性 50代) ●沖縄の保養のスライドがよかっ た。広河さんが沖縄の保養を立ち上げた事を 初めて知った。ベラルーシの子どもたちが事 故から30年たってもなお、大変な状況におか れているのを知り心が痛んだ。(男性 40代) ●チェルノブイリ被曝の第2世代で、ここま で病気が重く出ていることを日本の社会にど うやって知らせればいいのか。●原発事故か ら 4 年、これからが大変な時を迎えることを 知りました。地域で行っている保養キャンプ で年2回の食事作りの手伝いをしていますが、 継続する必要を思いました。(女性 60 代) ●以前、球美の里でボランティアをしたため 原子力に対する関心があった。チェルノブイ リ、福島で被ばくした、特に子どもたちの状 況、保養の状況について学べて良かった。教 育制度、習慣の違いなど、まだまだ課題が多 く残されており、福島事故が忘れられようと しているが、これは私たち全体の問題である と思った。(20代) ●勉強になりました。少し 気になることがあります。「福島」を代名詞の ように使用せず、「東電による原発事故~」を

都度明記することが被災地への偏見をなくし、 事故を風化させないことに役立つのではない でしょうか。(50代) ●事後サポートに対して 日本とのあまりの違いに驚きました。日本の 子ども支援法の中味のなさ、何とかしなけれ ば!●ベラルーシで今後、汚染地に住もうと しているような動きがあることをお聞きし、 大変憂慮すべき事態だと思いました。また、 今後フクイチ原発事故による影響が出て来る ことを考えると、国と粘り強く交渉していく と同時に民間で保養施設を作ってゆくべきだ という思いを強くしました。(女性 60代)● 保養が大変効果がある事が分かりました。日 本においても公的に保養をうける体制になっ てほしいと思います。正しい放射線教育は本 当に実現されるでしょうか。どうしたら実現 できるでしょうか(これこそ行わなければい けないと思っています)。(女性 60代) ●放 射能教育の重要さは認識していましたが、学 校現場(教師)が管理されている中での困難 と、国民あげての風化…。●日本では保養費 が国費負担していないので支援者のカンパ等 で行われている。ぜひとも国に負担してもら いたい。(女性 60代) ●ベラルーシでは国が 保養プログラムを行っている一方、日本(福 島)では国がほとんど何もやっていない。県 も復興のための妨げになるとして消極的であ る。これからも市民のボランティアの活動が 重要。私も少しでもお手伝いしたい。(男性 60 代) ●ベラルーシでは 30 年経っても、大変 な影響がある。今後の福島、近県、関東の我々。 不安に思います。(女性 40代) ●保養の重要 性を改めて学びました。日本は原発事故さえ 過去の事として葬ろうとしているような行動

が、原発再稼働の現実を物語っていると思う。 保養施設を国が設立し、教育現場で放射線教育をしているベラルーシの対応を、日本は国 民の為にもっといかしてほしいのに、それができていない現実。国が動けないなら個人、 団体で動くしかない。これからも学びを深め、 力になれる部分はできるだけ尽力したいと思う。(女性 30代) ●知らないこと、無関心がこわい!原発への反対の1人運動し続けます。 (70代)

この報告会の開催には、パルシステム東京さんより多大なご協力をいただきました。準備段階から、宣伝・参加者募集、当日の運営まで、きめ細やかにご対応いただきました。

今年の夏、ベラルーシの保養施設「希望」で開催した「腫瘍病・血液病の子どもたちのための保養」の費用の一部は、パルシステム東京『平和カンパ』が使われました。また、「沖縄・球美の里」の保養にも、パルシステム東京『福島支援カンパ』が使われました。原発被害にあった子どもたちへの、組合員の皆さまによる幾重ものご支援に、心からお礼を申し上げます。

また、当日は「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」「沖縄・球美の里」のボランティアの方々も参加されました。



会場では、保養の様子の写真の展示や、カレンダーなどの販売も行いました。



里 親 の ペ 一 ジ

<里子からの手紙>



◆Iさん、小包を受け取りました。ナザールはプレゼントをとても喜んでいます。特にリュックサックが気に入り、品物をみんなそこに詰め込んで背負い、30分ほどそうして座っていたくらいです*。それから私たちはみんなで日本のお菓子を食べながらお茶を飲みました。私たち家族みんなよりお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。日本からのプレゼントとナザールの写真を送ります。ナザールの家族より

(ベラルーシゴメリ州カリンコヴィチ地区) ※ナザール君は後縦隔の神経芽細胞腫。背骨の異常により歩くことができず、リハビリを続けています。

◆Mさん、長い間お手紙を出せずみませんでした。この間、いろいろな変化がありました。2015年1月に卒業試験があり、その後卒業証書をもらいました。就職活動をしていましたが、ゴメリ市内には私の専門を活かせる仕事がないため、別の町で探すことにしました。ミンスクで求人がありましたが、私は初め、両親や弟を置いてほかの町へ行きたくありませんでした。弟のアルチョムは9/1から小学校1年生になり、制服や本などを買わなければなりません。母はまだ再就職先が決まっていませんでした。私は仕事の経験を積む必要がありました。それでミンスクで働くことに

決めました。私は今、小さな組織で経理の仕事をしています。給料は180ドルです。多くはありませんが、今のところなんとか足りています。両親や弟のために少し貯金をする余裕もあります。月に1、2度はゴメリの家に帰っています。私はミンスクの町のはずれで小さなアパートを借りています。すぐそばに松林があります。職場までは遠く、交通機関を3回乗り換えて、1時間半かかります。一方、町から遠いおかげで空気はよく、雨の後など松の香りがし、朝は鳥が鳴いています。私の家族はみな変わりありません。あなたにくれぐれもよろしくと言っています。あなたとご家族のみなさんのご健康と幸福をお祈りします。

ユーリャより (ベラルーシ ミンスク市) ※ユーリャさんは就職したため、里親からの支援 は終了しましたが、文通は続いています。

<里親からの手紙 >

「希望」でのヤロスラフ君の様子、きれいな 笑顔(の写真を)ありがとうございます。 彼もこの10月で15歳。幸せを祈ります。

(東京都 F さん)





※昨年夏の保養プロジェクトに参加した里子の様子を、それぞれ里親のみなさんに写真付きでお送りしました。

" 太陽光発電プロジェクト " ディストングラフィック ディア ディア・ファイ ディア・ファイ マラルーシ「希望」

2016年4月でチェルノブイリ原発事故から30周 年です。この事故は多くの人々の人生を変えてし まい、沢山のベラルーシの家庭に涙と悲しみ、苦 しみをもたらすとともに、世界中に「原子力の平 和利用」が全人類にとって危険なものであること を見せつけ、新しい代替エネルギー源の模索の必 要性を考えさせるきっかけとなりました。30周年 の節目の日を前にし、「希望」は『太陽の連帯』 いう名のプロジェクトを企画し、皆様からのご支 援を頂きたいと考えています。「希望」では再生 可能エネルギーによる100%自給自足を実現させる ことを目指しており、この目標を達成するため、 太陽光発電所の建設を開始することを計画してお ります。この発電設備の設置により、再生エネル ギーを得るだけでなく、追加の財源を得ることが 可能となります。この発電設備を国の電力網と接 続することにより、10年間にわたって得られた電 力の価格の2.7%を国が上乗せして支払うことに なっています。この収入により、子どもたちの滞 在プログラムに新たな取り組みを加えることが可 能となります。しかしこのような利益を得るため には、太陽光発電設備の建設にかかる資金を確保 しなければなりません。そこでこの太陽光発電設 備の建設プロジェクトの実現のため、スポンサー のみなさんに対し、次の2つの案を提示します。 ①プロジェクト「太陽の連帯」を支援し太陽光発 電施設の建設に寄付金を提供した場合、例えば、 1546.26 ドル相当の寄付により、新しい太陽光発電 施設の1kW分の電力を賄うことができます。さ らに少額の規模での支援も可能であり、110.45ド ルの支援により、1人の子どもが1年に1日滞在 する費用分を賄うことになります。②プロジェク ト「太陽の連帯」を支援し、太陽光発電施設の建 設に資金提供を行う場合、太陽光発電により得ら れた資金の相当分を、皆様方の保養グループの子 どもたちの保養に充当する用意があります。これ により「希望」での子どもたちの保養・滞在治療 において、保障された無料の滞在割り当てを得る ことが出来ます。具体的には太陽光発電施設の建

設に2322 ドル相当のご寄付と引き換えに、1人の子どもが5年間、24日間、無償で保養・滞在治療を行えるように提案致します。皆様からの寄付が多いほど、無料で保養することのできる人数は増えます。太陽光発電施設の建設に対するどのような規模のご寄付に対しても歓迎、感謝致します。子どもの滞在期間、受け入れ人数などあらゆる条件の御相談に応じます。私たちの連帯と太陽光が多くの子どもたちに喜びをもたらし、「希望」の新たな発展の道を開くことを願っております。

所長 V・マクシンスキー

ベラルーシの子ども健康回復施設「希望」では以前より、食堂の建物の屋根に太陽光パネルを取り付け、食堂で使用するお湯などに使用してきました。また、木材チップを使用したボイラー設備も作り、施設内のシャワー用のお湯や暖房の一部に使用しています。今回はさらに大きな敷地に太陽光パネルを作り、"再生可能エネルギーによる100%自給自足の実現"を目指しています。

「残念ながらベラルーシでは原発の建設が予定されています。国の決定に私たちは何も言うことができませんが、太陽光発電により、原発がなくてもやっていけることを示したい。これが実現すれば我国唯一のものとなります」とマクシンスキー所長は言います。汚染地区の子ども専用施設で再生エネルギー発電が実現したら素晴らしいことです。子ども基金は、保養プロジェクト参加者の保養費に充当される支援を行うことにしました。

2015年8月「希望」で保養をした子どもたち



【訂正】前号ニュースレター (2015年10月17日発行 No.102) p.5「希望」の記事の中で、最終行に間違いがございました。申し訳ございません。
④一般の旅行客 4% (誤) → 17% (正)

ふくしま便り

「ウクライナのチェルノブイリ支援団体の 女性を岡山に迎えて」

12/1、岡山市の京山公民館で、ウクライナの女性 2 人を迎えて交流会を持ちました。京山公民館はこれまで、東日本大震災の被災者・避難者と岡山の地域の人をつなぐ場として、震災関連講座を十数回にわたって主催してきました。今回はその「国際編」として開催したものです。この交流会は元々、山口で長くチェルノブイリ支援を続けてきた市民団体「えんどうまめ」の石川悦子さんと、岡山出身でジャーナリストの竹内高明さんが中心になって企画したもので、日本各地で行なわれました。私は福島と岡山の交流会に参加し、岡山では司会をさせていただきました。

今回の参加者は約 45 名 (うち避難者が約 10 名)。岡山は避難者の数が西日本で一番多く、避 難者や支援者の間では、放射能やチェルノブイリ についての関心も高いと感じています。交流会の 部屋には秋の花や落ち葉、木の実が飾られ、和や かな雰囲気の中で進められました。ゲストのお2 人は、キエフの支援団体「ゼムリャキ(同郷 人) | 代表の K・タマーラさん (以下、T さん) と、 チェルノブイリ被災児の主任担当医師の B・スヴィ トラーナさん(以下、S さん)。チェルノブイリ事 故で被災しながら、避難先のキエフで、文化活動 や医療活動を通して、被災者の支援を続けている 方たちです。お2人とも、2週間で東京・福島・ 大阪・京都・兵庫・岡山・広島・山口を回る強行 軍をものともせず、事故前後の動画や検査結果を 示しながら、キエフの被災者の現状を丁寧に話さ れました。T さん 「ゼムリャキは、キエフに避難 した被災者を精神的に支えることから始まったが、 被災者の体調の悪化にともない、医療支援もする ようになった。子どもの絵の展覧会や大人の文化 活動を多彩に行ない、被災者の支えになっている。 日本からも医師やヨガの団体が来て、検査や講師 養成をしてくれている」。S さん 「被災した子 どもは毎年検査を受け、9歳になると全員が脳の 断層撮影をするが、消化器・神経系・呼吸器・内

分泌系の順で慢性病が増えている。健康な子ども は、事故直後は 30%だったのが、10 年後には 10%に減った。甲状腺がんは事故後 10 年で 10 倍 になった。キエフに避難した子どもは、900人が 甲状腺に 2 グレイ (ガンマ線で 2Sv=2000mSv) 以上 被曝し、うち 110 人が 6 グレイを浴び、うち 7 人 が甲状腺がんになった」コーディネーターの鬼木 のぞみさん(岡山市議)が、「29年間このよう な活動を続けてこられたモチベーションは?」と 問うと、T さんが、「内外のいろいろな支援や活 動があったから続けてこられた。ストレスやうつ に負けず、自分がやれることを前向きに考えてい くことが大切」と答えました。また鬼木さんが、 「被災者はどのように避難先の地域に溶けこんだ か?」と尋ねると「事故後 10 年くらいは、放射 能に対する偏見や補償金へのやっかみもあったが、 私たちの活動や情報発信によって、そういうこと は減っていった」と T さん。また、「国の経済の 悪化や内戦で活動は苦しくなっているが、一般の 関心は減るどころか増えている」とも話しました。 「給料の 15%が戦争税として徴収される」とい う話には会場から驚きの声が上がりました。次に 三田茂先生が、東京から岡山に避難してきた医師 として現状説明と質問をしました。三田先生 「キエフより東京の方が放射能汚染が強い。日本 は物流が激しく、岡山の給食の自給率も下がって いる。これから全国で異常が出てくるのでは。キ エフに元からいた人は病気になっていないか? | Sさん「キエフに避難した子どもは、元々キエフ にいた子どもに比べて疾病率が3~4倍、甲状腺 異常は 10 倍、被災者の両親から生まれた子ども の疾病率は2倍」と話が熱くなったところで、情 しくも時間となりました。カンパ箱に集まった3 万円弱の募金は、すべてゼムリャキの活動費とし て、Tさんたちにお贈りしました。来年はチェル ノブイリ 30 周年、福島 5 周年。チェルノブイリの 教訓を踏まえて、岡山でも保養・避難・移住・健 診をますます進めなければと、改めて強く思った 交流会でした。 仙田 典子

(岡山市在住、「チェルノブイリ子ども基金」里親、「子ども未来・愛ネットワーク」世話人)

黒部ドクターのお話



<チェルノブイリ原発事故から30年 福島原発事故から5年>

チェルノブイリ原発事故から30年、福島原発事故から5年経とうとしています。先日東京新聞に載った記事*を読んで昔のことを思い出しました。私が子ども基金にかかわり、1996年10月に広河さんの要請でウクライナとベラルーシに行った時のことでした。ウクライナではキエフの避難民居住地にドイツのNGOと協力して診療所を建て、そこの検査器具を寄贈し、ベラルーシでは三つの村の病院を回り、援助して欲しい薬の希望を聞きました。帰る前にキエフでチェルノブイリ博物館に行きました。新聞にも載っていましたが、そこには消火に当たったすべての消防士の写真が掲げられていました。そこで案内をしてくれた人から聞いた話が感動的でした。

リクビダートル(収束作業員)と呼ばれた消防士、 兵士、作業員たちは60万人以上いたとされますが、 その中で高濃度の放射線量を浴びひん死の重傷を負 った人たちのうち、ロシア人はモスクワへ運ばれ、ア メリカから派遣された専門家による骨髄移植などの 専門的な治療を受けました。しかし、ウクライナ人 はキエフの病院で何も治療することができず、対症 療法を受けるだけでした。キエフの病院では手をこ まねいている訳にはいかず、せめての助けになろう かと、それ以前に起きてそれまでは隠されていた、 ロシアの核処理施設での事故で生き延びた人たちを 呼んで励ましてもらったのです。「俺たちも高線量 を浴びて死をさまよい助かったのだから、お前たち も頑張れ」と。その結果、モスクワで治療を受けた 者はすべて死亡しましたが、キエフで治療した者は 生存者が出たのです。生きる希望を与え、がんばる ことが大切だということが示されました。この話は 事故後10年たっていた時のことです。

ベラルーシの保養所「希望」も、希望をもって生きようという意味なのでしょう。それが大きな成果を生んでいます。保養にくると子どもたちが生き生きとして元気になり、腫瘍マーカーも減り、セシウムの内部被曝量も減り、帰っていきます。保養は単に放射能から離れ、汚染された食べ物を食べないだけではなく、子どもたちに生きる希望を与えることが第一と思います。

日本では、「沖縄・球美の里」が何とかそれに近いことをしようとしているのですが、残念ながら設備も予算も限られています。不十分ではありますが、保養の大切さをアピールすることには成功しました。ベラルーシのように、学校のクラス単位で保養に行き、そこで授業もクラブ活動もできる程にはまだ至っていません。本格的にするには、国の支援が必要です。しかし国は安全を強調し、保養などは必要ないという態度です。福島の子どもたちは、周りの目を気にしながら保養に行きます。

また甲状腺がんの手術後の子どもの保養も実現していません。手術した子どもは福島県立医大に囲い込まれ、保養には行けません。子どもの甲状腺がんと白血病は早期に出ると予測されていますが、甲状腺以外の健診をしていません。大人でも白血病は3年後から増えることが予測されていますが、白血病の方は公表されず、かかった人の家族も知られるのを恐れています。実際に何人かの白血病の人たちの話を耳にしていますが、皆ひっそりと隠れて闘病生活を過ごしたり、亡くなった人もいます。

保養は、まだ発病していない子どもたちにも必要ですが、発病した子どもにはさらに必要です。病気になっても、生きる希望を持てば、病気を乗り越えられるのです。特に、甲状腺がんも子どもの白血病も長期生存率の高い病気です。その子たちにこそ、保養と生きる希望を与えることが必要です。福島で運動や野外活動を制限されて生きている子どもたちに、のびのび生きていくことを教えたいのです。

今私たちにできることは「球美の里」の維持管理 といわき市の「たらちね」に健診センターを作り、 子どもも大人も継続的な健診をすることです。精一 杯努力したいと思いますのでご支援をお願いします。

黒部信一: すずしろ診療所所長 小児科医師 ブログ: http://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941

(※東京新聞はチェルノブイリ30周年を目前にして独自取材した報告を2015年12月末から数回に分けて掲載。)

★新刊のお知らせ『予防接種のえらび方と病気に ならない育児法』黒部信一 著 (現代書館)

チェルノブイリの歌声 ~みなさまからのメッセージ~

<パルシステム東京 等々力委員会・ピースカフェ(東京都世田谷区・2015/12/16)>

~ 子ども基金の向井・佐々木講演への感想~ ◆以前、チェルノブイリの事故で病気になった子 どもたちの具合が悪化する時というのは、同じ病 室の子が亡くなったりして、精神的につらい思い をした時だと言われたことを思い出しました。心 が少しでも明るくなるような活動の取組みは国を 越えて皆で進め維持していくこと。大変だけれど 真剣に考え広めていかなければならないと思いま した。次世代のそのまた次世代までずっと伝え実 行すること、自分もよく考え、自分の子どもにも 今日のことは伝えたいと思いました。◆私たち自 身はデイズジャパンを読ませていただいているの で、少しは知っているつもりですが、それでも知 らない事ばかりで、直接お話をうかがい、報道さ れていない事を知る機会の重要性を再認識しまし た。原子力には危機感を持っており、チェルノブ イリ事故以前から原発反対の立場でした。チェル ノブイリの事故の情報を聞いた時の恐怖感は忘れ られません。心配していた事が現実になってしま った絶望感で打ちのめされた事を思い出します。 そしてこの事故の教訓から何も学ばず、日本は世 界一過酷な原発事故、福島の原発震災を起こして しまいました。いつ事故が終息するのか…。チェ ルノブイリ事故以上の絶望感を感じています。で もこのような困難な状況にあっても希望を未来に つないでいくことがいかに大切な事かを、今日の お話から学ばせていただきました。皆様方のご活 躍がどれだけ多くの人達の希望と未来に繋がって いるか!そしてその活動が伝播して人々を国を動 かす力になっている事に深く感動いたしました。 チェルノブイリ事故からもうすぐ30年なのに世代 を超えた身体への影響が続いているのですよね…。 福島の原発事故も来年で5年、こちらは廃炉の見 通しも立っておらずチェルノブイリより状況は深 刻です。しかも日本政府は福島事故の放射能の影 響を低く評価し、多くの人たちが日常生活での被 曝を余儀無くされて居ます。身体的影響も多く報

告されていますが、残念ながら世間一般の関心は 薄らいできていると感じます。原発の再稼働も始 まり今後も続いていきそうです。お二人のお話を うかがい「人を苦しめるのも人、癒し救うのも人」 なのですね。今日うかがったチェルノブイリと福 島の真実を周囲の人たちに伝え、一人でも多くの 人が「癒し救う方の人」になっていけるように、 企画などを通して動きを作っていきたいと思いま した。一人の力は小さくても沢山の思いが集まれ ば大きな力となり国の政策を変えて行けると信じ ています。これからも私たちで出来ることでご活 動を応援させて下さい。◆保養に参加している子 どもたちの写真とお話は、今まで聞いてきた数字 や理屈の話より、心に響く説得力がありました。 彼らの事を資料も見ずに語れるご様子に、本当に 親身になって活動されているのだと思いました。 今のチェルノブイリ、それは30年後の福島の姿で しょう。私たちが残す負の遺産、忘れる人が増え ても、事故を知らない世代が増えても続く仕組み の支援が必要だと思いました。1人の力や知恵は 限られていますから、まずはこのようなお話をも っといろいろな人に聞いてもらいたいと思います。 ◆今回のお話をうかがって強く感じたことは、チ エルノブイリ事故から約30年が経つのに、その頃 生まれてもいなかった現在の子どもたちの体に変 調があることです。チェルノブイリでは事故の被 害が現在進行形であるという事実、世間は忘れて いく事実に未来の福島と日本を見る思いがしま す。福島の現在のお話をうかがい、現実の無情 さを思い知るとともに、向井さん、佐々木さんの 活動を聞いて、多くの人々が子どもたちに手を差 し伸べていることに救われる思いがしました。私 でも微力でも力になれるよう、今回うかがったこ とを少しでも広め、震災と事故を忘れないように したいと思いました!◆忘れたい辛い現実を再認 識しました。映像の力は凄いですね。病気を抱え たチェルノブイリの子どもたちの笑顔が忘れられ ません。明るいだけに涙を誘いました。子どもた ちの辛い姿は本当に見たくありませんね。真実の

情報を手に入れることが難しくなっている今の日本に於いて、現地に行かれてその現実を見て聞いて来られた方から直接お話を聞くことに大きな意義があるのだと思います。何よりも間違いのない真実だからです。残念ながら3.11後の日本でもチェルノブイリの悲劇は他人ごとではなく、より一層深刻な事態のようです。地道にこのような活動をされている方々がいらっしゃることと、その活動を少しでも多くの人々に広められたらいいと思いました。(※パルンステム東京さんの各地域の委員会が開催する「ピースカフェ」では、チェルノブイリ・福島の子どもたちの保養についての話をする機会をいただいています。)

〈振込用紙などにご記載いただいたメッセージから〉 ◆福島の事故の解明もできていないのに再稼働に走る電力業界や政府に怒りを覚えます。チェルノブイリの子どもたちに明るい未来を届けたいのに…。世の中を根本的に変えないといけないですね。(神奈川県Sさん)◆30年、早いですね。その年に生まれた長女も既に結婚しました。粉ミルクの汚染に戦慄したことを思い出します。チェルノブイリも福島も忘れないために、職場の壁に毎年カレンダーを貼り続けています。(神奈川県Hさん)◆ウクライナの青年が腎臓移植を受けられるように祈ります。(北海道Tさん)

くウクライナの青年ウラディスラフへの支援を呼びかけて募金を集めてくださった三重県のY さんから>2015年10月号に掲載のウクライナの青年ウラディスラフ君のメッセージの最後、「僕は生きていたいのです!」の言葉が胸に残り、少しでも役に立てればと、今、毎月第2日曜日に地域の人たちと開いている市場でチャリティバザーを開きました。少額ですがお役立てください。

「来年はチェルノブイリ原発事故から30年です」と市場でアナウンスしたときに、誰かが、「30年か」とぽっと呟いた声が残っています。こういうことをきっかけにして何度でも思い出し、覚えておいてほしいと(自分も含めて)思っています。良い機会をいただきました。有難うございました。皆の優しさが彼の支えとなりますように。

彼の願いが叶うことを祈っています。三重の田舎の山の中で、元気を取り戻すことができた私は、きれいな水と空気がどれだけ人間にとって重要なものであるかを感じています。自分の都合だけを考えて、自然を汚すような生き方はもう改めなくてはいけないと思います。それは田舎に住む私たちの努力だけではなし得ないのではないかと。都会で知らずに恩恵を受けている人たちに自覚してもらうことも大切なことだと、今は思っています。そこをつなぐような楽しいことができたらと思います。

<子ども基金の教援カレンダーを毎年たくさん販売してくださっている武蔵野市のKさんから>毎年1冊見本にして、できるだけ内容を見ていただいて買っていただくようにしています。買っていただいてお礼を言うと「こちらこそありがとうございます」と逆にお礼を返されることもあります。皆さんと広河さんの息の長い豊かな活動の賜物だと思います。

<2016年カレンダーのナターシャへ>

ナターシャ、あの日あなたはあらゆる勇気をふり しぼって8000キロを隔てる未知のくにヤーパンを 訪れられたのでしたネ。そして、いまは天上にあ ってあなたの幸せを見守られる伊勢さん夫妻との 一週間のホームスティをはじめ、親切な異人たち に囲まれて過ごす夢のような一か月を体験しまし たネ。離日の朝、終始お世話になったテレビ局記 者の唯一の立ち入った質問を受けて、4/26のあの 出来事以来日課として欠かせない投薬の手をとめ たお母さんが「一生この薬なしには生きられない この子…」と、嗚咽で声を詰まらされたときわた しは、自らの罪深さに打ちのめされました。でも、 ナターシャ、あなたはいまこのような笑顔で二児 のお母さんとなられ、その名のごとくにわたした ちに「希望」を示しておられる。 (2015年9月15 日 深夜記す。2016年度カレンダーを受けとって) ※現在は三重県にお住まいのMさんが、1998年にナ ターシャと母親が岩手県・奥中山で保養をしたときの ことを思い出し、書いた手紙です。

2015年度決算報告書

【2015年1月1日~12月31日】

| 収 入 | |
|-------------------------|------------------------|
| 項目 | 金額 |
| 前期繰越募金 | 14,052,020 |
| 救援一般 保養費 | 9,094,132 1,179,450 |
| 特別保養費 | 1,802,700 |
| 里子支援 | 5,074,702 |
| ウクライナの青年の治療支援 | 1,727,800 |
| 救援キャンペーン 2015年4月イベント | 620,727 |
| 2016年4月イベント 11月保養報告会 | 1,000 45,060 |
| 購読料•運営費*1 預貯金利息 | 1,435,650 864 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| 物販売上 本・ポストカード・CD・民芸品 | 70,300 |
| カレンダー2015 | 70,300 1,130,916 |
| カレンダー2016 | 2,272,985 |
| 小計 | 38,508,306 |
| | |
| 合 計 | 38,508,306 |

| 支 出 | |
|---|--|
| 項目 | 金額 |
| 救援 整養費 特別保養費 団体運営費*2 里子支援*3 緊学生支援*5 ウクライナの青年の治療支援 ヴクライナの青年の治療支援 が進費・為替手数料 未来の福島こども基金 | 2,498,774 2,742,744 3,985,489 1,675,716 5,231,558 258,156 72,126 1,902,576 399,465 106,000 450,000 |
| 救援キャンペーン 2015年4月イベント 2016年4月イベント 11月保養報告会 | 490,128 8,718 2,959 |
| 事務運費 国内 Tel·Fax 国内 Tel·Fax 印刷・コピー費 二人件費 一次務務所費 本務所費 事務所費 「宣議費 国内振込手数料 | 0 118,870 90,488 580,425 2,934,052 392,387 242,228 268,347 0 13,400 1,970 |
| 物販仕入 本・ポストカード・CD・民芸品 カレンダー2015 カレンダー2016 小計 次期繰越金 合計 | 18,153 5,361 1,134,187 25,624,277 12,884,029 38,508,306 |

- *1 (株)カタログハウスからの運営費100万円含みます。
- *2 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。
- *3 里子支援 63人(経費1割、2016年1~6月支援分も含む)
- *4 緊急支援 2人
- *5 奨学生支援 1人(年度途中の人数も含みます)
- * 切手、はがき等16,370円分も寄贈されています。
- * カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2015年度のカレンダー収益は2,495,576円でした。

2015年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2016年2月20日

会計監査 監事 鈴木 由利子

監事 清水 玲子

****** 募金·救援状況 ******

(単位・円)

| ●募金状況 | 2015年10月~2016年1月 | | | (単位:円) |
|--------------------|------------------|---------|------------|-----------|
| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1月 |
| 募金件数 | 187 件 | 208 件 | 202 件 | 125 件 |
| 救援寄付金 | *1,652,800 | 526,025 | *2,712,659 | 416,193 |
| 保養費 | 74,000 | 132,900 | 172,200 | 46,000 |
| 特別保養費 | 175,000 | - | 70,000 | 70,000 |
| 里子支援 | 162,312 | 13,800 | 27,500 | 2,149,940 |
| ウクライナの青 年の治療費支援 | 1,093,500 | 157,600 | 476,700 | 5,000 |
| ニュース購読 費 | 54,000 | 62,000 | 42,000 | 28,000 |
| イベント賛同金 | - | - | 1,000 | 10,000 |
| 合 計 | 3,211,612 | 892,325 | 3,502,059 | 2,725,133 |

★2016 年救援カレンダー販売状況 おかげさまでご好評いただき、在庫あと 僅かとなっています。もう 2 月も半ばで すが、もしご希望でしたらぜひお買い求 めください。2 月より定価 1100 円→ 800 円(送料別)に値引きしています。

<購入者からの感想>◆いつもすばらしいカレンダーをありがとうございます。写真だけでなく、毎月記された文章もいいですね。(山梨県Kさん)◆普段めったに耳にすることのない遠い地ですがカレンダーを掛けているおかげで心の中にあり続けています。(東京都Rさん)

* 匿名の方からの募金1万ドルを含む

● 救援状況 2015 年 10 日~2016 年 1 日

上記のほかに、はがき・切手、商品券など 8,140 円分の ご寄付をいただきました。みなさま、 ほんとうにありがと うございます。

| ● 秋 振 休 沈 | (単位, 向) |
|----------------------------------|-----------|
| ◎ウクライナの青年の治療費支援 | 1,902,576 |
| ◎子どもたちの生存 | |
| 里子支援 3人(2016.1-6月分) | 107,802 |
| 緊急支援 1人 | 35,934 |
| スタッフ給料1年分 | 143,736 |
| 家賃、通信費 | 179,670 |
| <ベラルーシ> | |
| ◎困難の中の子どもたちへ希望を | |
| クリスマス・新年会支援 | 63,034 |
| 里子支援 50人(2016.1-6月分、2015.10-3月分) | 1,829,400 |
| 緊急支援 1人 | 36,588 |
| 奨学生支援 1人 | 36,588 |
| 医薬品 | 1,219,600 |
| | |

學 募金団体名一覧 ♥ (順不同・敬称略)

家賃、通信費

紙面の都合上個人名は省略させていただいております。 【10 月】ピースライブ イン こうち/(株) 桜井書店/はり 灸 みのわ/民宿 夢民村【11 月】葦の会 有志/恵 泉女学園中学・高等学校 文化祭委員会/実教出 版 放射能倶楽部/(株)七つ森書館【12 月】パルシステム等々力委員会/(株)鹿王企画/川西友の会 /大阪北教会 婦人会/美杉むらのわ市場/日本 キリスト教会 浦和教会 日曜学校/千葉友の会/ 公益財団法人 大阪 YWCA/日本キリスト教団 片 倉教会 教会学校/日本キリスト教団広島船越教会 /社会福祉法人共に生きる会 川和保育園/

** ご協力いただいているみなさまへ **

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

<u>払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で</u> ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。 文字がかすれて判読しづらい場合がございます ので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費·寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

One Voice Aizu 実行委員会/フォークダンスを楽しむ会/中振キリストの教会/恵泉女学園中学・高等学校【1月】友愛富士見町保育園/広島女学院中学高等学校/弓町本郷教会 女性の会/イエス・キリスト教会 祈りの家/青山学院女子短期大学同窓会/三重チェルノブイリ被曝児童救援募金/松山古町教会 C・S/チェルノブイリ子ども基金奥羽/自治労日野市職員組合/川和保育園 父母の会/日本基督教団 田名部教会/北陸学院中学校・高等学校/広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会

341.488

事務局から

■「小さき声のカノン」上映会&交流会 3/19(土) 南陽市文化会館(山形県南陽市)

10:00~上映①13:30~上映②15:45~チェルノブイリ 子ども基金・未来の福島こども基金 代表者の話を聞く 交流会 【参加費】1000 円 主催:小さき声のカノン上 映実行委員会【問】長島黎二 T/F: 0238-40-2886 ※交流会に、子ども基金の向井と佐々木が参加し、チェ ルノブイリと福島の子どもの保養の話をします。

■"ボランティア募集 " ニュース発送作業(年3回: 2・6・10月)このニュースレターを送るための封入、糊付けなどの作業をお手伝いいただける方を募集します。 どなたでもご参加いただけます。

次回 6/18(土)午後1時~4時頃まで。ご都合のよい時間帯だけでも大歓迎です。 場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。

【問】平日午前 10 時~午後 5 時 留守の場合は伝言をお願いします。 T/F: 03-6767-8808

■「基金ニュースレター」について 募金をくださった方には、使途の報告として基金ニュースをお送りしています。また、ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

■ベラルーシの民芸品販売

<マトリョーシカの小物>★マグネット:縦 6cmx 横 4 cm ★キーホルダー:縦 4.5cmx 横 2.7 cm各1個 500 円。 <リネンのクロス> サイズ:45~50cm×70cm 1 枚 800 円。それぞれ、色・柄はお任せください。(子ども基 金の HP に画像を掲載しています。)

■映画「広河隆一 人間の戦場」上映の情報

横浜シネマ・ジャック&ベティ(2/13~)、福岡・KBC シネマ(2/13~)、名古屋シネマテーク(~2/26)、広島・横川シネマ(~2/28)、フォーラム仙台(3/5~3/11)、

香川・ソレイユ2(4/9~4/22)。詳細は各劇場へお問い 合わせください。

■各地でのイベントのご案内

◎江古田映画祭(ギャラリー古藤・東京都練馬区) 2/27~3/13 「日本と原発4年後」「小さき声のカノン」 「放射能を浴びた X 年後2」「ニッポンの嘘」などを上映。 他の上映作品、入場料等詳細は主催者へお問い合わせください。(都内の皆さんにはチラシを同封しています。) 主催:江古田映画祭実行委員会

【問】T: 03-3948-5328 HP「ギャラノー古藤」で検索。

◎チェルノブイリ30 年・福島5 年 子ども平和絵画展名古屋展(名古屋 YWCA 3/11-12)、南相馬展(銘醸館3/16-20)、大阪展(大阪近鉄百貨店上本町店10F)、東京展(紀伊国屋書店新宿本店4/15-17)、静岡展(グランシップギャラリー4/22-24)、京都展(京都市国際交流会館4/26-5/1)全絵画展入場料無料。【問】稲葉広子 hiroko.inaba@virginmedia.com共催:日本ウクライナ文化交流協会NGOゼムリャキ後援:在日本ウクライナ大使館

◎世界平和の願いコンサート(大阪市・6/18)

*出演:ナターリア・コズローヴァ(ソプラノ、ウクライナ出身)、 カテリーナ(バンドゥーラ、ウクライナ出身)、次郎丸智希 (ピアノ)、上田佳子(オルガン)

*日時: 2016 年 6 月 18 日(土) 14 時開演

*会場:日本基督教団 東梅田教会(大阪市北区)

*参加費:2500円(500円の寄付が含まれます)

*共催:スラヴ音楽の会、日本ウクライナ文化交流協会

*後援:日本ユーラシア協会大阪府連

*寄付先:チェルノブイリ子ども基金

*申し込み先:日本ウクライナ文化交流協会 T: 072-926-5134

【編集後記】神楽坂の事務所から引っ越して1年が過ぎました。事務所の近所の練馬区立南田中図書館では、2/28までチェルノブイリの展示が行われています。この地域でのつながりもできてきました。

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2·6·10月)発行● 〒177-0035 東京都練馬区南田中 2-7-7 Tel/Fax 03-6767-8808 E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/index.html ◇事務局ブログ http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。